

愛知環状鉄道

～工業地域と都市部を結ぶ愛知県唯一の第三セクター～

愛知環状鉄道は、岡崎から春日井市の高蔵寺までの 45.3km を結ぶ路線で、愛知県内陸部の沿線住民たちの重要な交通手段となっています。愛知環状鉄道は「愛環」の名で親しまれており、JR 線と接続することで愛知県東部をぐるっと回ることができるようになっています。

＋ 車輛の特徴

愛知環状鉄道で使用されてきた車輛は、第三セクター転換時に導入された 100 系グループでした。この路線の沿線は、住宅地や工業地帯として発展したこともあり長らくは住民たちの重要な交通手段として活躍してきました。

その後、この 100 系グループの多くはえちぜん鉄道へ譲渡され、愛知環状鉄道からは引退しています。

代わりに、JR 東海の 313 系 3000 番台をベースとした 2000 系が登場し現在では愛知環状鉄道の主力として活躍しています。

＋ 路線の特色

この路線は元々、1970 年代に国鉄岡多線として開通していた区間と、その後第三セクターとしての転換が決定してから開通させた区間から成っています。

本来この路線は、岡崎—挙母—多治見を結ぶ岡多線と、瀬戸—勝川—稲沢を結ぶ瀬戸線として計画された路線からなっており、日本鉄道建設公団によって建設がされていました。しかし、1980 年代に国鉄の財政赤字から建設は凍結されてしまい、岡崎—新豊田間が開通したのみでした。ダイヤは乗客本位とは言えず、乗客は伸び悩み、頼りの貨物輸送も廃止されると廃線の対象となりました。しかし、沿線には住宅地と工場が多く立地し、起死回生は望めました。そこで、第三セクターの愛知環状鉄道が設立され、既存の岡多線と、瀬戸線として建設されかけて凍結されていた新豊田—高蔵寺間を完成させ、1988 年 1 月に開業を果たしました。

沿線には、自動車会社大手のトヨタ自動車やその他多くの工業地帯・住宅地が存在するため利用客は多く、年々利用客を増やし第三セクターとしては珍しく黒字経営を達成しています。現在では年間利用客数は 1400 万人を超えています。

そして、2005 年の「愛・地球博」の開催に伴い名古屋から高蔵寺を経由して「エキスポシャトル」が万博八草（後の八草）へ直通運転を行いました。それ以来、その設備を利用して名古屋への直通運転も行っていますが、2014 年 3 月の改正で日中の直通列車は廃止されました。

最近では、駅舎のバリアフリー化を進めており利用者への配慮がなされています。また、新豊田～三河豊田間の複線化、朝夕の列車運行本数の増加、4 両列車の運行拡大と輸送力の強化にも力を入れています。

＋ 参考文献

1. 愛知環状鉄道株式会社 沿革
URL:<http://www.aikanrailway.co.jp/company/history.htm>
2. JR/私鉄 鉄道車両図鑑 - 日本の旅・鉄道見聞録 - 裏辺研究所
URL: <http://www.uraken.net/rail/alltrain/>
3. 鉄道車両フォト&データベース 愛知環状鉄道 車両形式一覧 - FC2
URL:
http://dkkawachi.web.fc2.com/rail_photograph/aikan_photo.html

100系 ～トリコロールカラーの愛環の顔～



全長:19,000 mm 最高速度:80km/h 主電動機:MT46 (100kw) 抵抗制御

愛知環状鉄道 100 系は 1988 年に愛知環状鉄道開業時に用意された車輛です。高蔵寺方制御電動車の 100 形、岡崎方制御付随車の 200 形の 2 両編成が 9 本と、増結用に両運転台車の 300 形が 5 両存在しました。台車と車体は新造していますが、機器類は廃車となった国鉄 101 系のを流用し、コストダウンを図っています。2003 年より 2000 系による置換えが進み、2005 年の万博輸送が終了すると共に全車引退となりました。

その後、福井県のえちぜん鉄道がこれを譲り受け、両運転台化などの改造を行った上で、Mc6001 形、Mc6101 形として現在でも活躍しています。(写真はえちぜん鉄道で使用される現在の姿です)

2000系 ～JR313系の愛環バージョン～



全長:20,100 mm 最高速度:110km/h 主電動機:C-MT66A (185kw) IGBT-VVVF インバータ制御

2000 系は 100 系の置換えと万博に向けての輸送力増強をすべく 2002 年に登場した車輛です。313 系と設計を共通化しており、車体は前面デザインが異なる他は同一、機器類は全く共通です。車内も 313 系 3000 番台と同じセミクロスシートですが、2009 年に登場した 2 編成はオールロングシートです。カラーリングは緑色をベースとした一般公募で選ばれたデザインを使っていますが、2009 年に登場された編成からはシンプルな青帯となり、従来車も同じ色に変更されつつあります。大掛かりな検査は JR 名古屋工場に委託しており、高蔵寺から中央西線を走り JR 名古屋工場へ回送される姿を時折見ることが出来ます。